



Zoomの動作を確認する内田さん

「笑楽日塾」塾生

# ひと

うちだ しげる  
内田 茂 さん

## 蕨の専門家講座を世界に発信

### 各

々が専門分野を講義し、語り合う蕨のグループ「笑楽日塾」(会員は40代から80代男性14人)が、8月から月1回、Zoom(動画配信ツール)で、「包丁と砥石」、「大名庭園」などの講座を無料配信しています。その企画を立案し、配信を支えるのが内田茂さん(71歳・中央1丁目)です。IT企業でセキュリティなどの研修を行っていた内田さん。退職後は培ったスキルを生かして、中央公民館のパソコン支援隊などの地域活動を始めました。活動の縁で、昨年「笑楽日塾」の会員に。ホームページの更新を担当し、塾の魅力を発信することで、加入者も増えていきました。

ところが、2月から新型コロナウイルスの感染が拡大。外出自粛で仲間が集まらないなか、内田さんはZoomによるオンライン会合を提案し、高齢で不安があった人も、丁寧なフォローで操作に慣れ、その便利さに目を開きます。仲間の反応に手応えを感じた内田さんは、コロナ下の新たな活動としてオンライン講座を企画。Zoomの配信手順を整え、入念にリハーサルを行いました。市内ケーブルテレビでの放映も決定して追い風が吹くなか、全3回のライブ配信は、海外を含む延べ100人以上が視聴。後日テレビを見た人も感想を寄せるなど、反響を呼んでいます。「彼のおかげで内輪の集まりが外の世界と広くつながった」と、塾長の荒井貞夫さんも信頼を置く内田さん。来年には自身の講座も予定していますが、まずは黒子に徹して動画の内容を充実させ、より多くの人に届けるのが願いです。最新の講座「鉄道のはじまり」は、12日にZoomで配信予定(ケーブルテレビで後日放映)。画面の奥には、柔らかな表情で配信を支える内田さんを感じられることでしょう。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

—No.54—



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
~明治22年(1889)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

錦絵「暁斎楽画」シリーズから、暁斎の親友のひとりである「暁斎日記」にもよく登場する剣豪・榊原鍵吉(1830-1894)を描いた1枚です。鍵吉は直心影流の達人で、維新後には撃剣会を開いて士族の活躍の場を挙げたほか、明治天皇の天覧試合で兜割を披露したことで有名です。暁斎が描いた本作では、鍵吉が常に愛用していた鉄扇を手に夜中の山中を颯爽と闊歩し、巨大な狒や骸骨たちは驚き恐れ入っています。

河鍋暁斎記念美術館 開催中  
「新富座妖怪引幕」完成140年記念 暁斎の妖怪画」展  
同時開催・特別展「暁斎と同時代の画家たち」展



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆  
「暁斎楽画第二号 榊原健吉山中遊行之図」  
明治7年(1874) 大判錦絵(正しくは鍵吉)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

開館=午前10時~午後4時  
休館=木曜日、毎月26日~末日  
ところ=南町4-36-4  
入館料=一般600円 高校生・大学生500円  
小・中学生300円 65歳以上500円  
※65歳以上の方は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください  
詳細=同館(☎441・9780)